（ロイター通信　記事の要約）

業界関係者によると、中国の養豚場で同定されたアフリカ豚熱（ＡＳＦ）の新しい株は、違法なワクチンが原因である可能性が最も高く、中国養豚業界に新たな打撃を与えている。見つかった新たな２つのASF株は、1つまたは2つの遺伝子が欠落しており、2018年と2019年の発生時のような致死性はないが、、産子数の減少といった慢性症状を呈する。

これまでの研究では、ASFから特定の遺伝子を削除することで免疫を獲得することを示していたが、改変されたウイルスは、後に病原性復帰を引き起こす傾向があったので、ワクチンとして開発されなかった。

現在、安全性が確認され、承認されたワクチンは存在しないが、業界関係者や専門家によると、豚の防疫に苦労している多くの中国の農民は未承認の製品に頼っており、これらの違法なワクチンが偶発的な感染症を引き起こし、現在広がっているのではないかと危惧されている。

中国農務省は、無許可のASFワクチンの使用に対して、重篤な副作用を及ぼす可能性があり、生産者と使用者が刑事犯罪で起訴される可能性があると三度にわたり警告を発出している。

これまでのASFワクチン開発研究の結果、生ワクチンが最も実現可能性のあるワクチンと目されてきているが、弱毒化されたワクチンであっても、時に病原性が復帰することがあるなど、高いリスクを有する。

専門家らは、既に多くの豚がこのようなワクチン接種を受けているのではないかとの印象を持っている。